

【短報】久米島から水生甲虫2種を記録

久米島から初記録となる水生甲虫2種を採集したので報告する。標本は基本的に筆者が保管しているが、一部については専門家に供与し、標本データ末尾の括弧内にその旨示した。

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Bistrom (図1)

稲畑 (2016) により日本から記録された種で、その後、渡部ら (2016) により石川県から記録され、国内に広く分布することが示唆された。沖縄諸島では沖縄本島から記録されていたが、周辺の島からの記録はなかった。水草の豊富な池から得られた。



図1. 久米島産サメハダマルケシゲンゴロウ.

1♂, 久米島ホテル館敷地内の池, 24. VI. 2017.

オキナワシジミガムシ *Laccobius (Microlaccobius) nakanei* Gentili (図2)

上手 (2007) によると、沖永良部島、沖縄本島、宮古島から記録がある（奄美大島、徳之島の記録は不確定）。主に平地から山地の流水域に生息するとあるが（上手, 2007）、今回は滝の飛沫帯でのみ採集された。生息地での個体数は多い。



図2. 久米島産オキナワシジミガムシ.

16♂21♀, ミーフガー付近の滝, 25. VI. 2017; 8♂7♀, タチジャミ付近の滝, 25. VI. 2017 (上手雄貴博士保管)。

末筆ながら、同定結果の確認をしていただいた日本甲虫学会の稲畑憲昭氏、名古屋市衛生研究所の上手雄貴博士、現地情報および敷地内での採集

を快諾いただいた久米島ホテル館の佐藤文保館長に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42(2): 12-16.
 稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.
 渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15-16.

(司村宜祥 226-0027 横浜市緑区長津田 2-38-14-106)

【短報】地表ピットホールトラップによるオオチャイロハナムグリの採集事例

オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis, 1887 は、甲虫目コガネムシ科に属し、日本固有種であり、本州、四国、九州、屋久島に分布し、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧に、2015年度版京都府レッドデータブックでは要注目種に指定されている。京都府では京都大学芦生研究林と右京区の愛宕山から採集された記録がある（京都府自然環境保全課, 2015）。

本種が属する *Osmoderma* 属は、主に巨木にあいた樹洞に生息し、羽化した個体が他の樹洞に分散することが知られている (Maurizi *et al.*, 2017)。

今回、京都大学芦生研究林内において、地表面に設置したピットホールトラップによって本種が採集されたので報告する。

1ex., 京都府南丹市美山町芦生, 24. VIII. 2017.

今回の調査では谷線、尾根線沿いに 10 m 間隔で計 120 個のピットホール（内径 7 cm）を 2017 年 8 月 20 日から 8 月 24 日までの 4 日間設置し、そのうち 1 個から本種が採集された。



図1-2. 今回設置したピットホールトラップ (1) と採集されたオオチャイロハナムグリ (2)。